

ほんとうにあったお話をもとに書かれました

「いつの日か入る 神殿に」(『子供の歌集』99)

ジョエレとミシェレは、道の向かいの建設地をじっと見
ていました。たくさんの金属梁やセメントのそうが見
えました。

ジョエレが言いました。「まだ神殿には見えないね。」

「でも、いつか神殿になるんだよ」とミシェレが答えます。

この二人の兄弟がイタリア・ローマ神殿の建設地を見る
のは、これが初めてです。今、かれらの家族は神殿に行く

ために、わざわざスイスまで行かなければなりません。で
も、この新しい神殿は家からたった30分のところにあるの
です。

ミシェレとジョエレは大きな黄色いトラックが土の山を動
かすのをながめていました。

「きっとあそこにせんとうが建つんじゃないかな」とミシェ
レは言い、建物の前の辺りを指さしました。

ジョエレはうなずきました。「見て！パパが来るよ」と

大きくなる ローマ神殿を ながめる



ジョエレは言いました。父親はふだんの仕事着を着ていま
した。教会の服と白い建設帽です。父親は、神殿で電気技師とし
て働いていました。二人は、毎日父親がどんな仕事をしたかとい
う話を聞くのが大好きでした。例えばある日、父親はキリストぞ
うが到着したと子供たちに教えてくれました。別のときには、バ
プテスマフォントについて話しました。

そのばん、ミシェレはわすれずにいり、神殿のことを天のお
父様に感謝しました。神殿についてのいり、いつも心が温かく
なりました。

それから何週間もたちました。神殿の丸みを帯びたかべは強
い石でおおわれ、2本の高いせんとうが空に向かってそびえて
いました。また、小さな訪問者センターが近くに建設されまし
た。時々、ジョエレとミシェレはそこに行き、顔をまどにお
し当て、どこが変わったかを見ようとしていました。

するとある日、うれしいことがありました。
「モロナイぞうが神殿のてっぺんに設置されるのを見た
いと思わない？」とお母さんがたずねました。建設作業
者の家族がみんな、見るよう招待されたのです。

ジョエレとミシェレにとってはまるでゆめのようにでし
た。二人とも大喜びしました。
翌朝、二人は白いシャツとネクタイを身に着けて家族と
一緒に神殿の周りを歩きました。金の天使モロナイと一緒に
写真までとることができました。巨大でした！

その後、作業者がぞうを動かし始めました。ジョエレは、
巨大なクレーンが慎重に天使モロナイをせんとうの上に乗
上げるのをながめました。ドローンがブンブン飛びながら、ビデ
オさつえいをしていました。とてもかっこよかったです！

ジョエレは、神殿の敷地をおとずれることによって教会
について学ぶ人々のことを考えました。また、たくさんの
人が神殿で結婚したり、死者のためにバプテスマを受けたり
することを考えました。

ジョエレは、「神殿に見えるようになったね」とミシェレに言いま
した。ミシェレはにっこりして、うなずきました。

二人は幸せな気持ちになりました。もうすぐ神殿に入れると思
うとわくわくしました。二人のあかしは、建物と一緒に大きくなり
ました。●

イタリア・ローマ神殿は、3月10-17日の週にほうけんされ
ます。friend.ids.orgにアクセスして、神殿が建てられている
様子をビデオで見てください。



イラスト：アダム・キール